

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	中央病院事務局 経営部施設管理課	氏名	主任 尾添大助
派遣先 団体名	障がい者自立支援事業所 ぽんぽん船		

① 研修の日時

平成28年9月6日(火)～9月10日(土) 8:30～17:00

② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)

1日のスケジュール例

- ～ 8:30 出勤
- 8:30～ 9:30 作業準備・利用者さん順次出勤
- 9:30～ 9:50 朝礼・体操
- 9:50～11:00 作業
- 11:00～11:15 15分お茶休憩
- 11:15～12:00 作業
- 12:00～13:15 75分昼休憩
- 13:15～14:15 作業
- 14:15～14:30 15分お茶休憩
- 14:30～15:20 作業
- 15:20～15:40 着替え・掃除
- 15:40～17:00 終礼・利用者さん順次帰宅・片づけ



体験した作業内容

作業は基本ぽんぽん船の職員である指導員さんと障がいのある利用者さんと一緒に作業を行うというスタイルでした。私は一利用者という立場で指導員さんの指示を受けながらそれぞれ体験させていただきました。それぞれ異なった内容でしたが、共通していたのは利用者さんのペースで作業を行うということでした。

作業① 苦手なことにもなるだけ挑戦 ～グループホーム・公衆トイレ清掃作業～

利用者さんと一緒に車で10分程度の多伎町内のグループホームへ。個室や食堂、廊下といったスペースのフロア清掃やベッド清掃を行う。障がいの程度によってできること、できないこと、あと、苦手なことがある。指導員の皆さんは個々人のそれを見極めながら、できることは手伝わず、できないことは事前に除いてあげて余計なストレスを与えないようにし、苦手なことはわざとさせたりしてできることへ変わるよう誘導する。ここでの作業は、ただこなしていくのではなく、将来に向けてできることを増やす訓練にもなっているのだと感じた。



作業② 丁寧に、自分のペースで ～いろんな内職～

紙を折る、ビニールを延ばす、シールを張る。作業自体はよくある事務作業だが、利用者の皆さんは丁寧に丁寧にそれをされる。同じことをしているのに違う作業をしているような不思議な感覚すら覚える。でもやっぱり単調作業は飽きるのか、冗談を言いながら取り組んだりもしておられた。

「自分のペースでできることをする」という働くスタンスは、日頃の効率に重きを置いた仕事の仕方に新たな視点を与えてくれたように思う。

作業③ プロ意識と責任感と、仕事があるという幸せ ～クッキー製造～

粘着ローラーで付着ゴミや髪の毛対策、念入りに手洗いと消毒、決まった手順で装備を整え鏡でチェック、また手を洗って消毒し、やっと作業場へ。病院厨房並の清潔度で入退室前にそれが繰り返される。若手中心の布陣で作業中はずっと立ちっぱなし。型どり、焼き作業、袋詰めにシール張りなど出荷されるまでのすべての工程に神経を使いながら臨んでおられ、邪魔にならないようにだけは注意した。

製造にはとても入れないので、袋詰め仕上げにビニールバンド止めをさせてもらったが、単純作業なのでこれはすぐ終わりそうだった。

正直、ただ懸命にこの作業を終わらせてもなんの体験にもならないので、使う指を減らしたりしながら作業してみたところあたりまえだが遅くなった。利用者さんは実際に手に麻痺がある方もおられる。知的障がいのある方も程度によりできる仕事は限られており、その日に事業所が用意できたメニューの中で、今日はこの作業しかできることが無いという方もおられるかもしれない。「毎日仕事がある」ということをありがたいと感じたことはあまりないが、今日ばかりは日々社会とかわかり、仕事を常に与えてもらえる環境にあることを感謝したい。



地域と一体となるお祭り ～ぼんぼん船祭りお手伝い～

【別紙案内チラシ参照】

今年で第10回目を迎えたぼんぼん船祭り。前日から大掃除や備品準備にバタバタし、研修最終日がお祭りとなった。多伎町のお店の他、市内の障がい者自立支援事業所などからも出店があり、駐車場は出店で埋まった。主にお手伝いしたのは国際缶つぶし大会とスーパーボールすく

いである。缶つぶし大会では限定50名の参加者が2缶ずつつぶして、つぶれた缶の厚さと幅により得点を計算、一番低い点がトップとなる。その中で計測担当だった私は「〇〇さん、1回目～、う～ん、厚さ10.3mm！」と声を張り上げ、どんどん測る。近所の方、利用者さん、利用者の親御さん、小学生から98歳までいろんな方が挑戦され、盛り上がった。

スーパーボールも小さなお子様に大人気。小さなプラスチックの玉にだれもが翻弄されていた。ギャングのような小学生相手にバタバタしていると、利用者さんの若手一人が見かねて手伝いに。これ幸いに弟のように「ボール補充して！」「この子まかせた！」と十二分の力を発揮してもらった。

最後は10回記念開催の福引。受付で配られたしまねっこうちわ福引券を片手に人が集まってくる。「〇〇番！」という発表に誰もが一喜一憂。これは分け隔てなどない、盛り上がりを見せた。



③ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

まず、ぼんぼん船の職員の皆様には大変お世話になりました。障がいに対する基本的知識から教えていただいたおかげで理解が早くなったと感じています。

バリアフリーという言葉が定着してから久しいですが、私にとってそれは段差をなくす、点字表記など具体的な対策を伴うものでしかありませんでした。今回、短い研修期間ではありましたが、精神面でのそれを実感することができました。

初日こそ新しい職場に着任したように緊張し、どう接していこうか思案していました。職員さんから「普通に接してもらえばいいですから」と言っていただけでも、なんとなく呑み込めず、曖昧なまま「普通に普通に」と心掛けていました。ですが、それも自然になくなりました。一言でいうと慣れてしまったのです。

今回の慣れるというのは体験によるものであり、その瞬間の不変のものであり、自分の言葉で説明することのできるものです。私がこれから過ごしていく時間の中で、障がい者自立支援事業所のことを説明する、障がいのある方はこんな方だと説明するといった時には、その体験の一部を伝えることができます。障がい者自立支援事業所はまだまだ広く認知されていないわけではないので、ご恩返しにぜひ伝えていきたいものです。

④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)